

都市構造分析結果

**分析方法**

「都市構造の評価に関するハンドブック」（平成 26 年 8 月：国土交通省）で示された分析項目を参考に、本市の強みと課題を分析するための項目を設定し、全国平均値（地方都市圏で概ね 30 万都市（10～40 万人））との比較を通じて本市の強みと課題に関する評価を行った。

**分析結果**

**強み** 「6. 公共交通の利便性の高いエリアの住宅割合」や「12. 公共交通沿線地域の人口密度」はいずれも全国平均値を上回っており、公共交通を利用しやすい環境が整っている。

**課題** 一方で「11. 市民一人当たりの自動車走行台キロ」が高く、「10. 公共交通の機関分担率」が低いことから、自動車依存度が高く、あまり公共交通が利用されていない。

**強み** 高岡医療圏の中心であり、「3. 医療施設の徒歩圏力カバー率」が高いことから、医療施設の利便性は高い。また「4. 福祉施設の徒歩圏力カバー率」、「16. 高齢者福祉施設 1 km 圏域高齢人口カバー率」ともに全国平均以上であり、福祉施設の利便性も高い。

**課題** 「9. 商業施設の利用圏平均人口密度」は高いが、「5. 商業施設の徒歩圏力カバー率」が低く、地域によっては徒歩圏に商業施設が無く、利便性が低い状態となっている。

**課題** 「26. 空き家率」が全国平均と比較して非常に高い水準となっている。

図 1 高岡市算出結果と全国平均値（概ね 30 万都市）との偏差値による比較

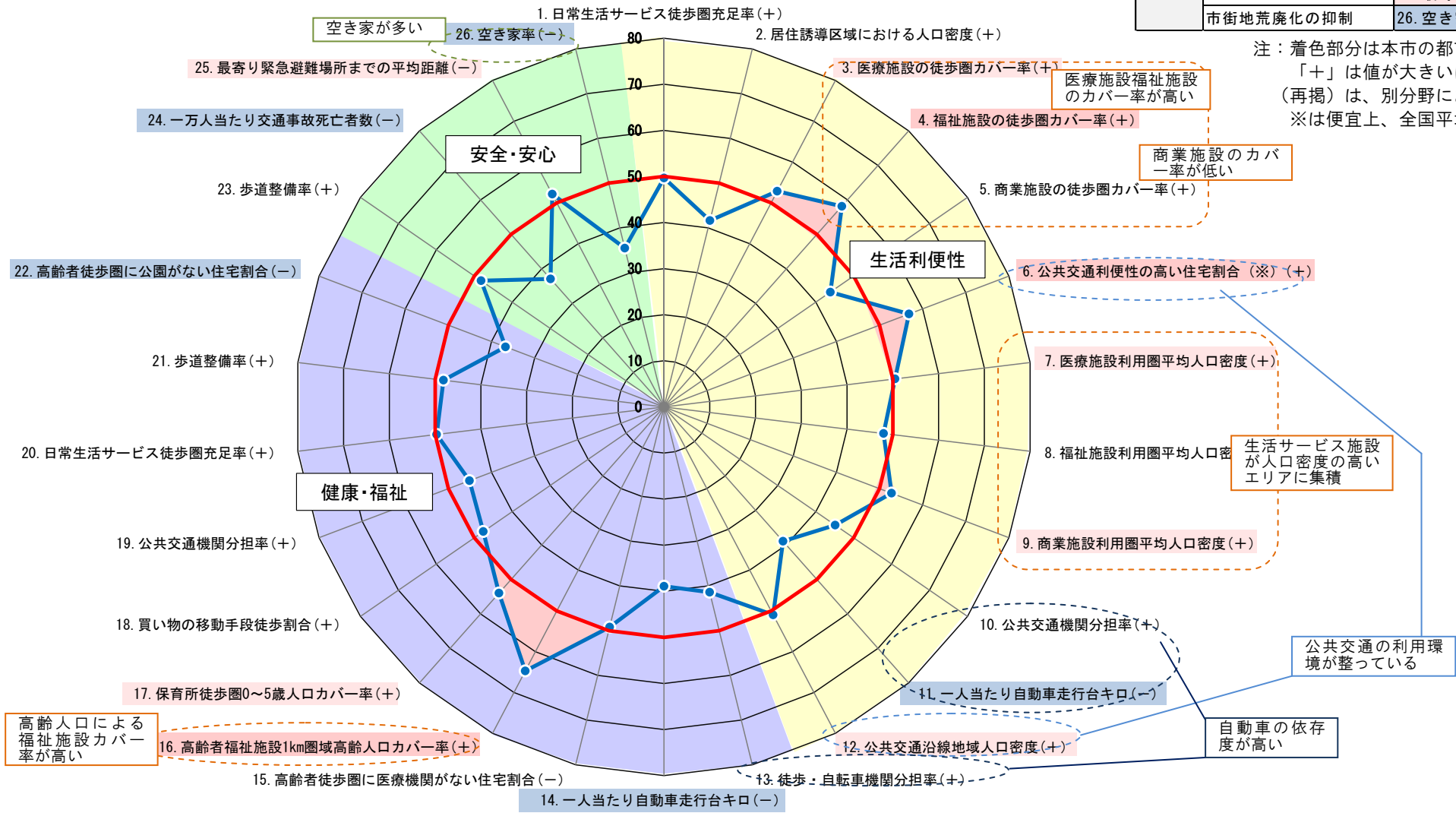


表 1 高岡市算出結果と全国平均値（概ね 30 万都市）との指標比較

| 評価分野・評価軸 |                  | 評価指標                       | 単位      | 全国平均値 | 高岡市算出値 | 高岡市偏差値 | 偏差値区分 |
|----------|------------------|----------------------------|---------|-------|--------|--------|-------|
| 生活利便性    | 居住機能の適切な誘導       | 1. 日常生活サービスの徒歩圏充足率         | %       | 29.7  | 29.2   | 49.7   | (+)   |
|          |                  | 2. 居住を誘導する区域における人口密度 ※     | 人/ha    | 44.1  | 32.8   | 41.7   | (+)   |
|          |                  | 3. 生活サービス施設の徒歩圏力カバー率（医療）   | %       | 75.9  | 79.3   | 52.8   | (+)   |
|          |                  | 4. 生活サービス施設の徒歩圏力カバー率（福祉）   | %       | 73.2  | 86.1   | 58.2   | (+)   |
|          |                  | 5. 生活サービス施設の徒歩圏力カバー率（商業）   | %       | 65.2  | 57.8   | 43.8   | (+)   |
|          |                  | 6. 公共交通利便性の高いエリアに存する住宅の割合  | %       | 46.0  | 51.9   | 56.8   | (+)   |
|          | 都市機能の適正配置        | 7. 生活サービス施設の利用圏平均人口密度（医療）  | 人/ha    | 20.2  | 20.8   | 50.5   | (+)   |
|          |                  | 8. 生活サービス施設の利用圏平均人口密度（福祉）  | 人/ha    | 18.7  | 16.5   | 48.0   | (+)   |
|          |                  | 9. 生活サービス施設の利用圏平均人口密度（商業）  | 人/ha    | 23.6  | 26.7   | 52.8   | (+)   |
|          | 公共交通の利用促進        | 10. 公共交通の機関分担率             | %       | 8.0   | 4.2    | 45.1   | (+)   |
|          |                  | 11. 市民一人当たりの自動車走行台キロ       | 台キロ/日・人 | 10.4  | 13.3   | 38.9   | (-)   |
|          |                  | 12. 公共交通沿線地域の人口密度          | 人/ha    | 15.9  | 17.1   | 51.0   | (+)   |
| 健康・福祉    | 徒歩行動の増加と市民の健康の増進 | 13. 徒歩と自転車の機関分担率           | %       | 27.5  | 23.6   | 41.4   | (+)   |
|          |                  | 14. 市民一人当たりの自動車走行台キロ（再掲）   | 台キロ/日・人 | 10.4  | 13.3   | 38.9   | (-)   |
|          | 都市生活の利便性向上       | 15. 高齢者徒歩圏に医療機関がない住宅の割合    | %       | 50.2  | 51.4   | 49.2   | (-)   |
|          |                  | 16. 高齢者福祉施設 1km 圏域高齢人口カバー率 | %       | 67.0  | 91.7   | 64.7   | (+)   |
|          |                  | 17. 保育所の徒歩圏 0～5 歳人口カバー率    | %       | 65.8  | 71.0   | 54.0   | (+)   |
|          |                  | 18. 買い物への移動手段における徒歩の割合     | %       | 16.4  | 14.2   | 47.6   | (+)   |
|          |                  | 19. 公共交通の機関分担率（再掲）         | %       | 8.0   | 4.2    | 45.1   | (+)   |
|          |                  | 20. 日常生活サービスの徒歩圏充足率（再掲）    | %       | 29.7  | 29.2   | 49.7   | (+)   |
|          | 歩きやすい環境の形成       | 21. 歩道整備率                  | %       | 54.5  | 51.9   | 48.2   | (+)   |
|          |                  | 22. 高齢者徒歩圏に公園がない住宅の割合      | %       | 51.4  | 79.6   | 36.7   | (-)   |
| 安全・安心    | 歩行者環境の安全性向上      | 23. 歩道整備率（再掲）              | %       | 54.5  | 51.9   | 48.2   | (+)   |
|          |                  | 24. 市民一人当たりの交通事故死者数        | 件/万人    | 0.45  | 0.74   | 37.1   | (-)   |
|          | 市街地の安全性の確保       | 25. 最寄り緊急避難場所までの平均距離       | m       | 703.4 | 637.9  | 52.1   | (-)   |
|          |                  | 26. 空き家率                   | %       | 5.2   | 8.0    | 35.5   | (-)   |

## (1) 公共交通の利用環境について

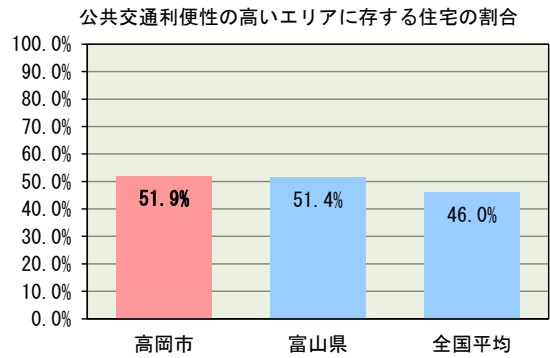
**強み** 公共交通利便性の高いエリア（注1）に存する住宅の割合（図2・表2）は51.9%となっており、県平均51.4%・全国平均46.0%を上回る水準となっている。

**強み** また、公共交通沿線地域（鉄軌道駅800m、バス停300m：図4）内の平均人口密度は17.1人/haと、比較的高い水準が維持されている（全国平均15.9人/ha）。

図2・表2 公共交通利便性の高いエリア（注1）に存する住宅の割合（H25）

| 区分                               | 高岡市    | 富山県     |
|----------------------------------|--------|---------|
| 距離別住宅総数                          | 61,810 | 379,800 |
| 駅まで1km圏内、もしくは<br>バス停まで200m圏内の住宅数 | 32,050 | 195,400 |
| 公共交通利便性の高いエリアに<br>存する住宅の割合       | 51.9%  | 51.4%   |

注1：住宅・土地統計調査で区分されている、駅から1km内、もしくはバス停から200m内の範囲。なお、路面電車は「駅」に含まれる。



（資料：平成25年住宅・土地統計調査）

図3 公共交通利便性の高いエリア

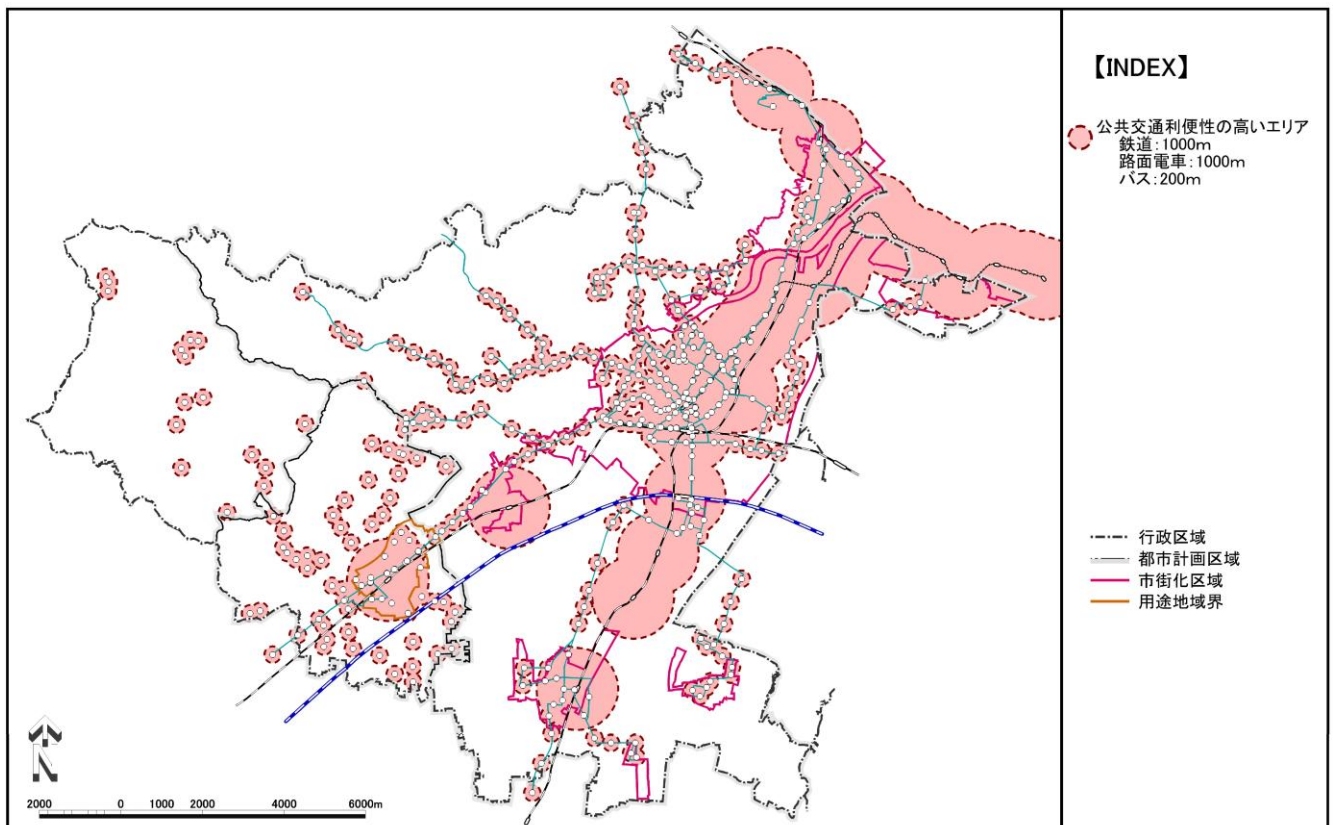
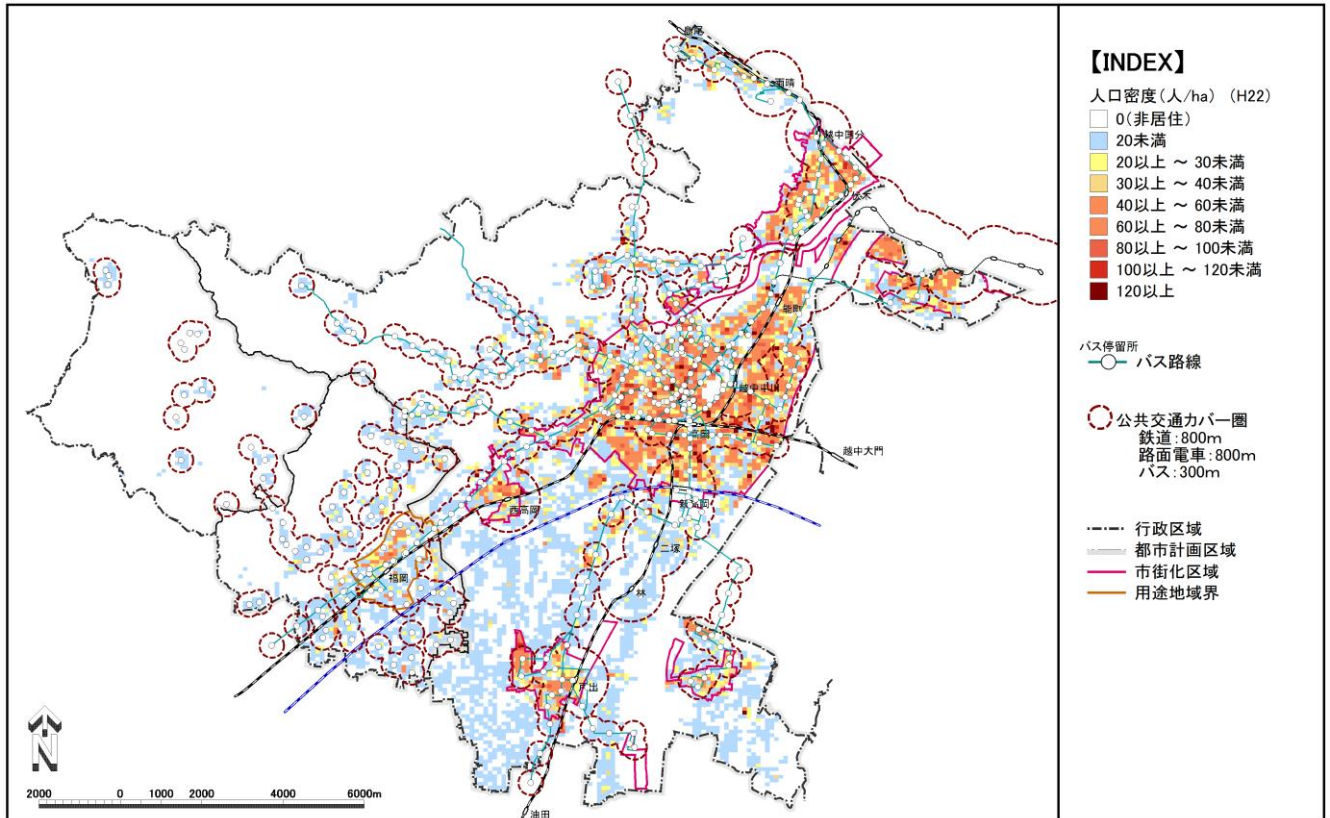


図4 公共交通カバー圏と人口密度（H22）



参考 徒歩圏の考え方

| 区分                |                       | 徒歩圏の考え方                                     |
|-------------------|-----------------------|---------------------------------------------|
| 都市構造の評価に関するハンドブック | 「公共交通利便性の高いエリアに存する住宅」 | 鉄道駅から1 km 内（路面電車含む）<br>バス停から 200m内          |
|                   | 「公共交通沿線地域」            | 鉄道駅から 800m内（路面電車含む）<br>バス停から 300m内          |
|                   | 医療・福祉・商業施設の「カバー圏」     | 各施設から 800m内                                 |
| 高岡市総合交通戦略         |                       | 鉄道駅から 1 km 内<br>万葉線駅から 500m内<br>バス停から 300m内 |

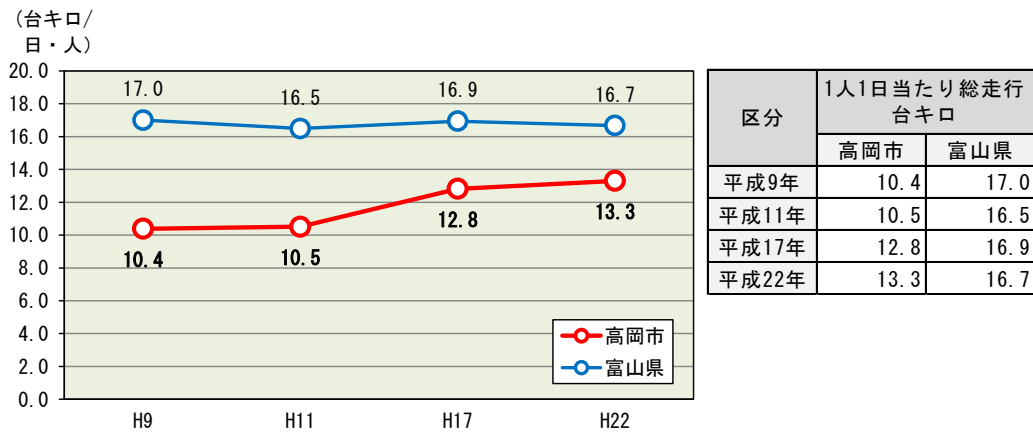
## (2) 自動車への依存度の高さについて

**課題** 1人1日当たり走行台キロ（図5・表3）は、県平均（16.7台キロ）は下回っているが、全国平均（10.4台キロ）を上回る水準となっている。また、県平均が横ばいから微減の傾向で推移しているが、本市の走行台キロは増加傾向となっている。

**課題** 公共交通分担率（表4）は4.2%にとどまっており（全国平均8.0%）、自動車依存度が高い状況となっている（自動車の機関分担率72.2%）。

**課題** 今後のDID人口密度の低下に伴う生活施設や公共交通のサービス低下に伴い、1人1日当たり走行台キロは、現在より1.19倍程度増加する可能性がある（表5）。

図5・表3 高岡市の1人1日当たり走行台キロ



（資料：道路交通センサス、高岡市統計書（H27））

表4 公共交通の機関分担率（富山・高岡都市圏）

| 区分      | 分担率    |
|---------|--------|
| 徒歩      | 13.5%  |
| 二輪車     | 10.1%  |
| 徒歩・二輪車計 | 23.6%  |
| 自動車     | 72.2%  |
| バス      | 1.4%   |
| 鉄道      | 2.8%   |
| 鉄道・バス計  | 4.2%   |
| 全手段合計   | 100.0% |

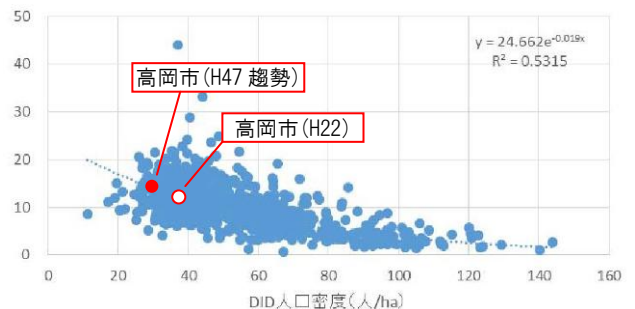
（資料：平成14年 富山高岡広域都市圏PT調査報告書）

表5 DID密度の変化に伴う1人あたり自動車走行台キロの増加

| 区分                       | H22    | H47<br>(趨勢) | H47<br>(目標) |
|--------------------------|--------|-------------|-------------|
| DID面積 (km <sup>2</sup> ) |        | 23.4        |             |
| DID人口 (人)                | 87,615 | 65,965      | 72,782      |
| DID密度 (人/ha)             | 37.4   | 28.1        | 31.1        |

| 区分                             | H22<br>(H27) | H47<br>(趨勢) | H47<br>(目標) |
|--------------------------------|--------------|-------------|-------------|
| 1人あたり自動車走行台キロ<br>(密度からの推計値)    | 12.1         | 14.4        | 13.7        |
| 1人あたり自動車走行台キロ<br>(H27実績値への補正值) | 13.3         | 15.9        | 15.0        |
| 走行台キロ増加率                       | —            | 1.19        | 1.13        |

注：推計値はH22年DID密度から算出した値、補正值はH22年推計値とH27年実績値（13.3台キロ/日人）の比率から補正した値



（グラフ出典：都市構造の評価に関するハンドブック）



### (3) 高い医療施設と福祉施設の利便性について

**強み** 医療施設と福祉施設の徒歩圏カバー率が高く（それぞれ 79.3%、86.1%）、全国平均（それぞれ 75.9%、73.2%）を上回る水準となっている。（図 6・7・8・9、表 6・7）

**強み** 特に、市街化区域及び用途地域内では、福祉施設の徒歩圏カバー率は 95%以上、医療施設の徒歩圏カバー率も 93%以上と高く、市街化区域等では徒歩で福祉施設や医療施設を利用できる環境が整っている。

**強み** 本市は県内 4 つの二次医療圏の中心に位置づけられ、市内に集積する医療施設は、総数でも人口あたりの施設数でも高い水準となっている。（図 10・11）

図 6・表 6 医療施設－区域別徒歩圏カバー率

| 区分           | 徒歩圏内人口  | 徒歩圏外人口 | カバー率  |
|--------------|---------|--------|-------|
| 富山高岡広域都市計画区域 | 134,890 | 28,001 | 82.8% |
| 市街化区域        | 111,369 | 8,360  | 93.0% |
| 市街化調整区域      | 23,521  | 19,641 | 54.5% |
| 福岡都市計画区域     | 4,671   | 8,156  | 36.4% |
| 用途地域         | 3,679   | 261    | 93.4% |
| 白地地域         | 992     | 7,895  | 11.2% |
| 都市計画区域外      | 0       | 343    | 0.0%  |
| 合計           | 139,561 | 36,500 | 79.3% |

・医療施設（病院、診療所（内科を含む施設のみ抽出））

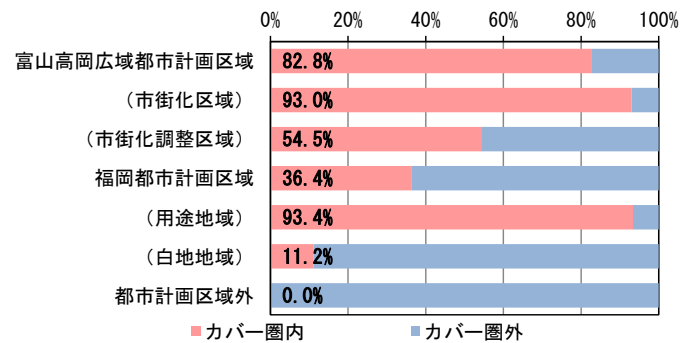


図 7・表 7 高齢者福祉施設－区域別徒歩圏カバー率

| 区分           | 徒歩圏内人口  | 徒歩圏外人口 | カバー率   |
|--------------|---------|--------|--------|
| 富山高岡広域都市計画区域 | 142,922 | 19,969 | 87.7%  |
| 市街化区域        | 114,545 | 5,185  | 95.7%  |
| 市街化調整区域      | 28,377  | 14,785 | 65.7%  |
| 福岡都市計画区域     | 8,678   | 4,149  | 67.7%  |
| 用途地域         | 3,940   | 0      | 100.0% |
| 白地地域         | 4,738   | 4,149  | 53.3%  |
| 都市計画区域外      | 0       | 343    | 0.0%   |
| 合計           | 151,600 | 24,461 | 86.1%  |

・高齢者福祉施設（訪問介護事業所、通所介護事業所（デイサービス）、地域密着型通所介護事業所、通所リハビリテーション事業所、地域密着型サービス）

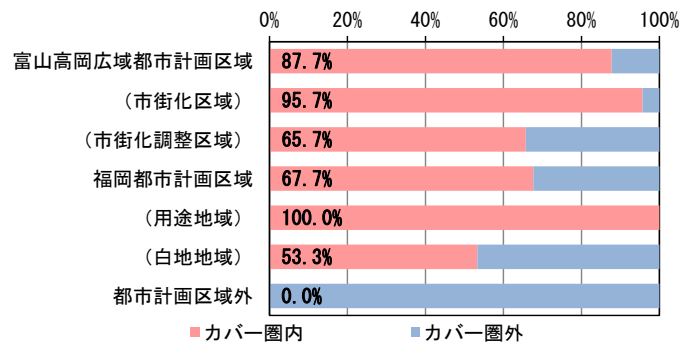


図8 地区別医療施設徒歩圏カバー率（H22）

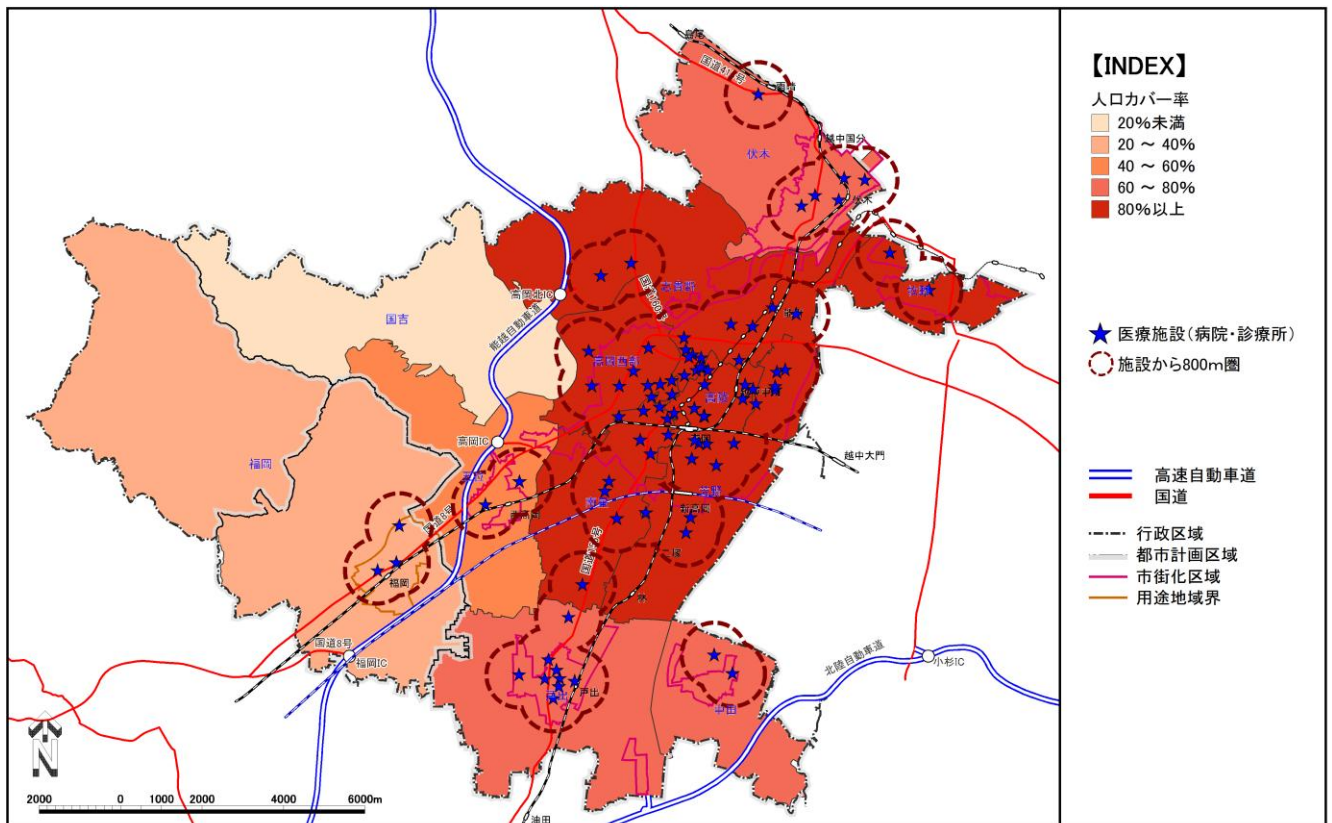


図9 地区別高齢者福祉施設徒歩圏カバー率（H22）

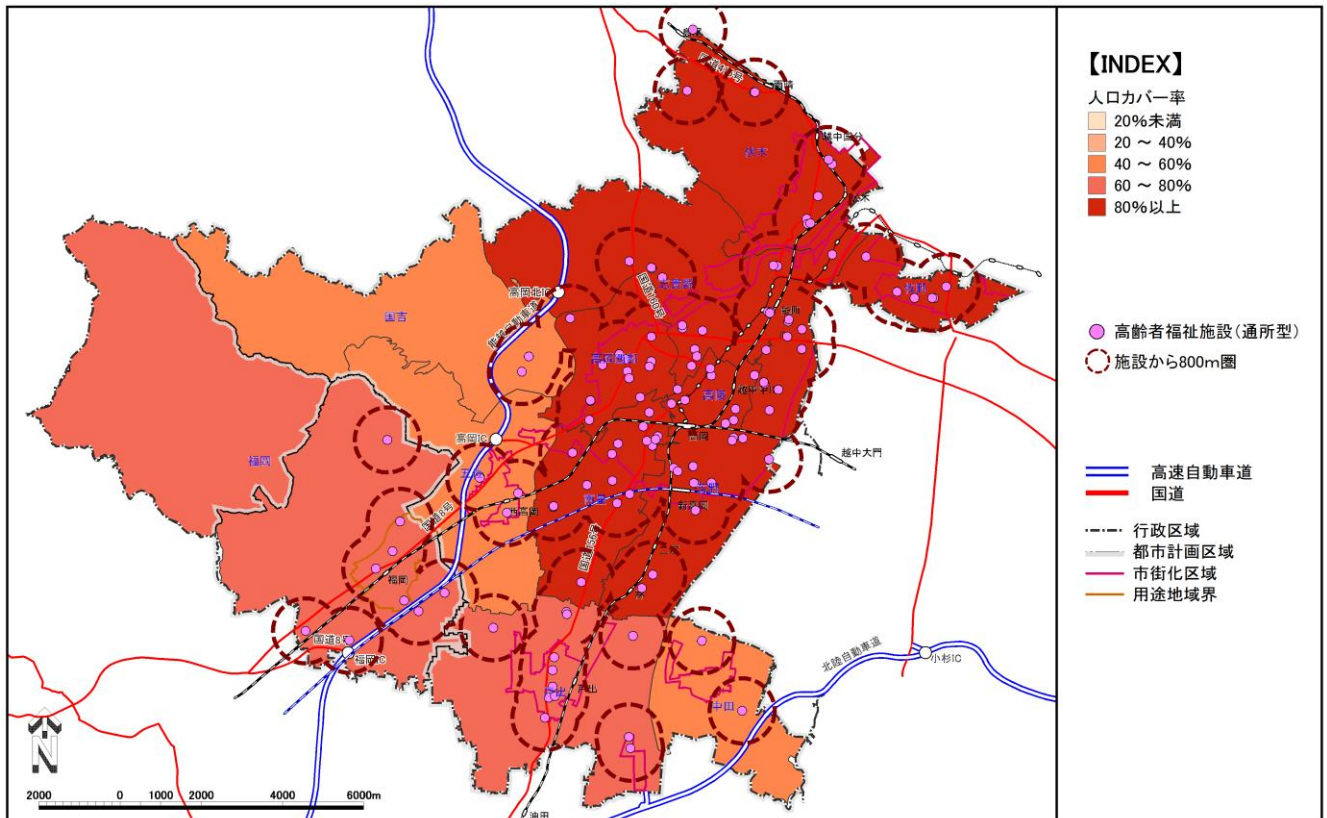
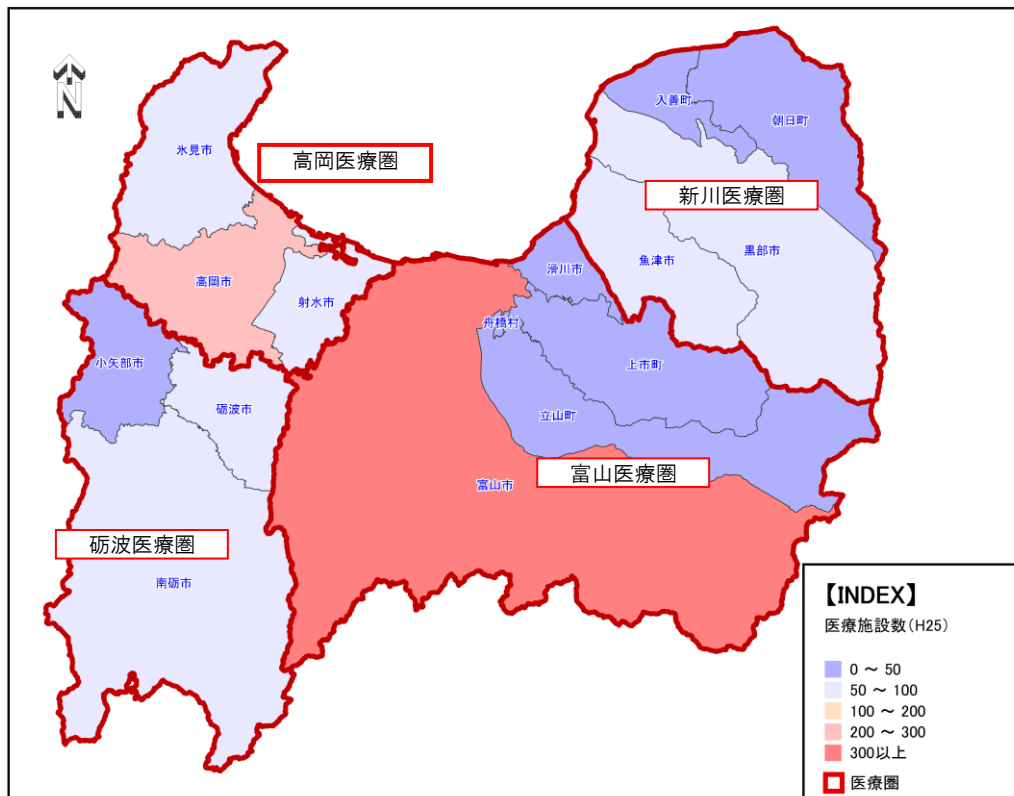
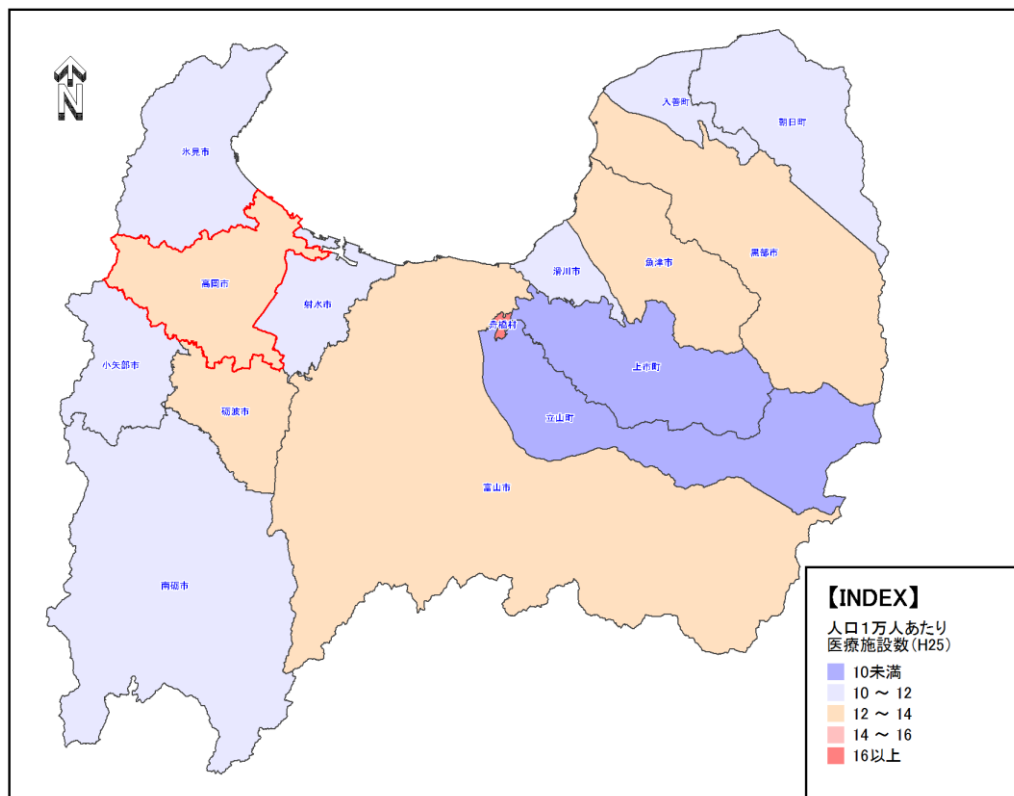


図 10 医療施設数 (H25)



(資料：H27 富山県統計年鑑)

図 11 人口1万人あたり医療施設数 (H25)



(資料：H27 富山県統計年鑑、H27 国勢調査)

#### (4) 商業施設の立地について

**課題** 比較的人口密度が高い市街化区域等に大規模商業施設の立地が集中し（図 12）、市街化区域等の縁辺部が徒歩圏外となっているため、商業施設の徒歩圏カバー率（図 13・表 8）は 57.8%（全国平均 65.2%）と低くなっており、自動車を利用できない人にとって不便な状態となっている。

**課題** 小売業の床面積当たりの売上高（図 14・表 9）は、県及び全国の平均以下となっていることから、人口減少に伴って売上減少が進んだ場合、現在よりも店舗数が減少することも想定される。

図 12 商業施設カバー圏と人口密度（H22）

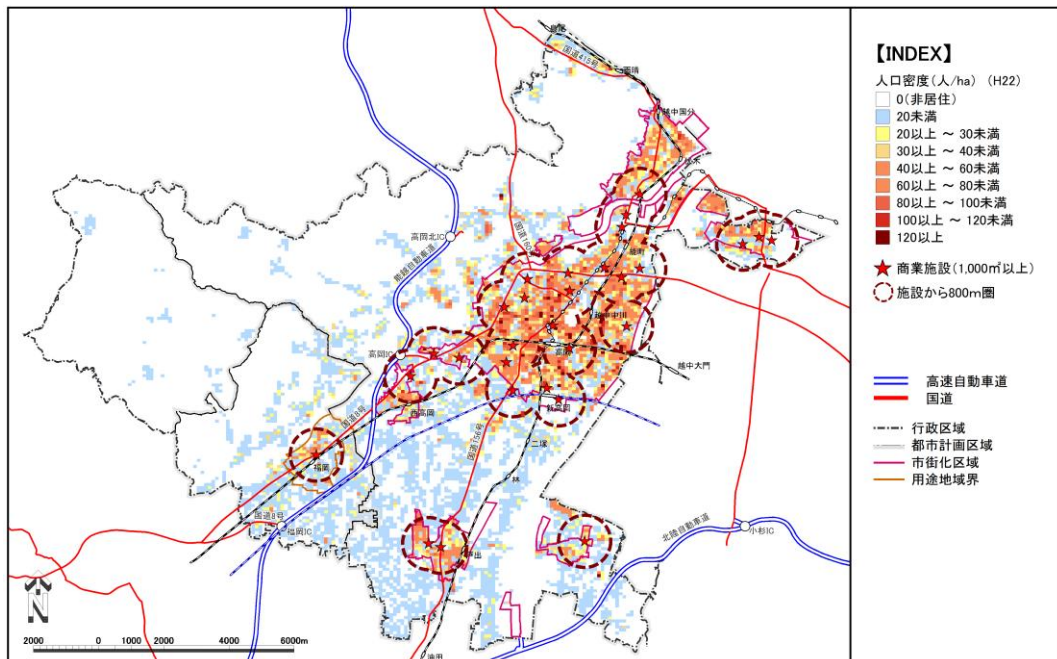
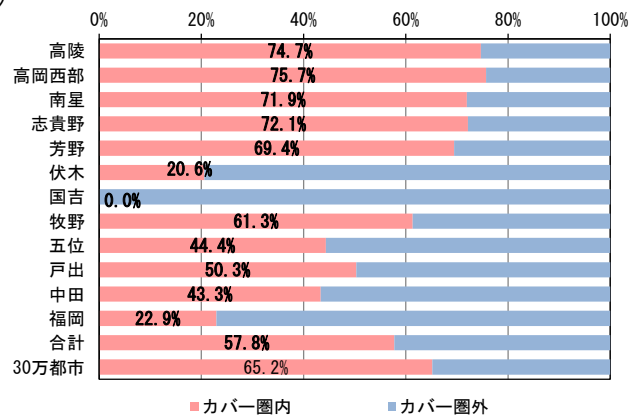


図 13・表 8 商業施設徒歩圏カバー率（H22）

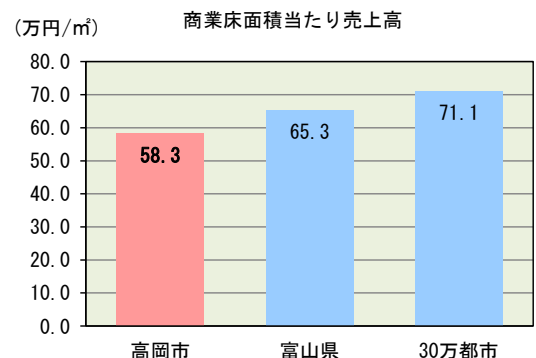
| 地区   | 徒歩圏内人口  | 徒歩圏外人口 | カバー率  |
|------|---------|--------|-------|
| 高陵   | 9,299   | 3,152  | 74.7% |
| 高岡西部 | 12,757  | 4,091  | 75.7% |
| 南星   | 14,730  | 5,744  | 71.9% |
| 志貴野  | 18,956  | 7,322  | 72.1% |
| 芳野   | 20,460  | 9,005  | 69.4% |
| 伏木   | 3,041   | 11,739 | 20.6% |
| 国吉   | 0       | 3,814  | 0.0%  |
| 牧野   | 5,383   | 3,392  | 61.3% |
| 五位   | 4,419   | 5,539  | 44.4% |
| 戸出   | 6,870   | 6,787  | 50.3% |
| 中田   | 2,770   | 3,620  | 43.3% |
| 福岡   | 3,021   | 10,149 | 22.9% |
| 合計   | 101,706 | 74,355 | 57.8% |



・商業施設（日用品を購入できる 1,000 ㎡以上のスーパー、百貨店、ドラッグストア（専門店、ホームセンターは含まない））

図 14・表 9 小売業床面積当たりの売上高（H24）

| 区分                | 高岡市     | 富山県       |
|-------------------|---------|-----------|
| 事業所数（所）           | 1,617   | 9,110     |
| 従業者数（人）           | 9,166   | 50,289    |
| 年間商品販売額（百万円）      | 163,943 | 924,048   |
| 売場面積（㎡）           | 281,167 | 1,414,661 |
| 商業床面積当たり売上高（万円/㎡） | 58.3    | 65.3      |

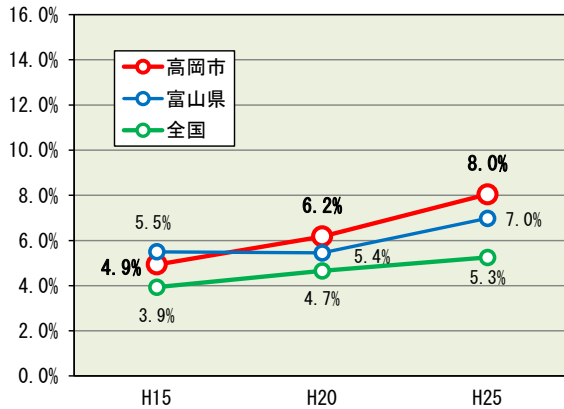




## (5) 空き家の多さについて

**課題** 本市では、空き家全体の割合は高くなっており、その中でも特に賃貸又は売却等の市場に流通していない空き家の割合が高く、近年は県平均を上回って推移しており、平成25年時点では8.0%が空き家となっている（全国平均5.2%）。

図15・表10 空き家数と空き家率の推移



| 区分    | 高岡市    |       |      | 富山県  | 全国   |
|-------|--------|-------|------|------|------|
|       | 住宅数    | 空き家数  | 空き家率 | 空き家率 | 空き家率 |
| 平成15年 | 62,780 | 3,100 | 4.9% | 5.5% | 3.9% |
| 平成20年 | 70,600 | 4,360 | 6.2% | 5.4% | 4.7% |
| 平成25年 | 72,980 | 5,870 | 8.0% | 7.0% | 5.3% |

（資料：住宅・土地統計調査）

（注）平成15年の値には旧福岡町の住宅数等を含まない

（注）住宅・土地統計調査の「空き家」に関する以下の4区分のうち「その他の住宅」のみを空き家として集計

- ・二次的住宅（別荘等）
- ・賃貸用の住宅（賃貸のために空き家となっている住宅）
- ・売却用の住宅（売却のために空き家となっている住宅）
- ・その他の住宅（上記以外の長期にわたって不在の住宅や建替などのために取り壊すことになっている住宅）